

日本音響学会誌・Acoustical Science and Technology 論文投稿チェックリスト

本チェックリストは投稿時に必要な手続きを確認し、投稿・査読処理を円滑にするためのものです。和文誌の論文・技術報告・研究速報・総説・寄書、英文誌の Paper・Technical Report・Acoustical Letter・Short Note・Review・Translated Paper・Translated Letter の中から該当する項目を確認した上で左側□内にノを付けて、投稿前に各自で確認して下さい。なお、本チェックリストは、日本音響学会のホームページ「投稿関連文書」<https://acoustics.jp/journal/kitei/> から取得できます。

和文誌の論文・技術報告・研究速報・総説・寄書の場合

英文誌の Paper・Technical Report・Acoustical Letter・Short Note・Review・Translated Paper・Translated Letter の場合

和文誌の要旨（研究速報、寄書では不要）

- 表題・著者名・所属を頭書きしてある。
- 300 字以内で書かれている。
- 本文の図表は引用していない。

和文誌の英文アブストラクト（寄書では不要）

- 表題・著者名・所属を頭書きしてある。
- 語数は、200 語（1,000 ストローク）以内、研究速報は 150 語（750 ストローク）以内で書かれている。

英文誌の Abstract（Acoustical Letter・Short Note では不要）

- 表題・著者名を頭書きしてある。
- 200 語（1,000 ストローク）以内で書かれている。

本文

以下の項目が本文に記載されている。

和文論文

- a. Subject Classification No.（本学会誌に掲載の投稿規定参照）。
- b. 原稿の種類（論文・技術報告・研究速報・総説・寄書等）。
- c. 題名 和文（40 字以内が望ましい）とその英訳。
- d. 著者名 複数人の場合、各々の和文とローマ字（full name）。
- e. 所属 複数人の場合、各々の和文。
- f. キーワード 論文、技術報告、研究速報、寄書には、和文とその英訳に関して 5 個程度。
- g. 連絡先 論文の脚注に掲載する連絡先として住所か e-mail アドレスを選択。

英文論文

- a. Subject Classification No.（本学会誌に掲載の投稿規定参照）。
- b. 原稿の種類（Paper・Technical Report・Acoustical Letter・Short Note・Review・Translated Paper・Translated Letter）。
- c. 題名 英文（副題を付ける場合は：（コロン）を用いること）。
- d. 著者名。
- e. 所属 複数人の場合、各々の英文。
- f. Keywords（5 個程度）。
- g. 連絡先 連絡先として論文の脚注に掲載する e-mail アドレス。

文章は横書き、「である」体を用いている。

専門用語や固有名詞以外は、常用漢字の範囲で書いてある。

数字はアラビア数字を用いている。

学術用語は、文部省学術用語集、JIS「音響用語」、本学会編「音響用語辞典」等に基づいている。

A4 白用紙を縦長に使用し、1 行 24 字、1 ページ 30 行、行間 4 mm 以上で作成してある。

LaTeX を利用しない場合：A4 白用紙を縦長に使用し、フォントは 12 ポイント、1 行の印字幅は 15 cm、行間は 1 行半以上で作成してある。

本文には 1 ページからの通しページを紙の下部に記入してある。

章の表題に通し番号をつけてある（例えば、1. まえがき）。

脚注は用いていない。

諸記号の字体に注意している。特に数学的演算記号・単位記号・化学記号の字体は立体を用いている（例えば、 $\sin(2\omega t)$ でなく $\sin(2\omega t) \cdot \text{kHz}$ でなく kHz）。

参考文献は、投稿規定の表記法に従って記述してある。

参考文献での和文の論文・書籍の引用では、著者全員の氏名をフルネームで明記してある。

提出する PDF ファイルに、フォントを埋め込んである。

図・写真・表（学会が供給している LaTeX スタイルファイルを用いずに編集した場合）

- 図・写真・表一つ当たり、紙1枚を用いている。
- 図・写真に関しては、Fig. 1, Fig. 2（和文では図-1、図-2も可）のように通し番号を付けて本文中で引用している。
- 図・写真に関する説明文は、まとめて別紙に記述してある。
- 表については、Table 1, Table 2（和文では表-1、表-2も可）のように通し番号を付けて本文中で引用している。
- 表に関する説明文は、別紙ではなく表の上に記述してある。
- 図は、刷り上がり時に片段に取めたい場合は左右65 mm、段抜きで入れるときは左右125 mmを限度とし、その刷り上がり時の約2倍（面積4倍）の大きさで描いてある。
- 各紙下部余白に番号・論文表題の略・著者名・希望の横寸法（65/125 mm）を記入してある。
- 図中の文字は、刷り上がり時の約2倍の大きさにおいて、14ポイント（天地：大文字4 mm、小文字3 mm）程度で記述してある。
- 図中の文字は英語である（和文誌での図・写真・表の説明文は、和文・英文どちらも可）。
- 図・写真・表の挿入位置を指示してある。
- 提出するPDFファイルに、フォントを埋め込んである。

図・写真・表（学会が供給している LaTeX を用いて編集した場合）

- 図・写真に関しては、Fig. 1, Fig. 2（和文では図-1、図-2も可）のように通し番号を付けて本文中で引用している。
- 表については、Table. 1, Table. 2（和文では表-1、表-2も可）のように通し番号を付けて本文中で引用している。
- 図中の文字は英語である（和文誌での図・写真・表の説明文は、和文・英文どちらも可）。

-
- 投稿時の内容物として**構成要素**を下記の順番で1部ごとに揃えてある。
 - 本文**
 - 要旨**（研究速報、寄書では不要）
 - 英文アブストラクト**（寄書では不要）
 - Abstract**（Acoustical Letter・Short Note では不要）
 - 50 ストローク以内の Short Running Title**（奇数ページに入れる簡略化した題目）
 - 図・写真説明文**（LaTeX を用いずに編集した場合）
 - 図・写真・表**
 - 査読結果・校正の送付先住所氏名、郵便番号・Tel・Fax・e-mail**
 - 研究会発表等の内容を Acoustical Letter に投稿する場合、別刷りが添付されている**
-

- 筆頭著者は、投稿時に本学会員である（連名者も会員であることが望ましい）。
- 以前投稿時掲載不適当又は取り下げの修正再投稿の場合、前回論文番号を備考欄に記入可。
- 本投稿原稿の内容は、他学会誌も含め既発表あるいは投稿中ではない。
- 本論文の投稿にあたり、次の査読の判定項目を承知している（詳細は投稿規定付録「査読について」を参照）。
- 〈分野性〉 音響学及びその応用分野に関係するものであること。なお、分野はできるだけ広く解釈する。
- 〈新規性〉 内容が公知・既発表、又は既知のことから容易に導きうるものでないこと。
- 〈有効性〉 内容が産業や学術の発展に何等かの意味で役立つものであること。
- 〈了解性〉 論旨が関連分野の会員に十分理解できるように、簡潔・明瞭に記述されていること。ただし、著しい厳密性・完璧さ・格調の高さ等は必ずしも必要としない。
- 〈信頼性〉 論旨に矛盾がなく、結論等を信頼する上で明確な根拠が示されていること。
- 〈体裁〉 投稿規定に従って原稿が構成され、記述されていること。